2022～2023 会報 RI第2720地区

Rotary The Hitoyoshi Rotary

人吉ロータリークラブ

通算３１４２回
2022年11月25日
第１５回例会

IMAGINE ROTARY

2022～2023年度 RI会長
ジェニファーE.ジョーンズ

人吉市九日町30・清流山水花 あゆの里 ☎㉒2171 例会場 事務局 清流山水花 あゆの里内 ☎㉔6665 ㉔6505

人吉ロータリークラブ ホームページ

フェイスブックページ

[E-mail] hitoyoshi-rc@mocha.ocn.ne.jp

2022～2023年度 人吉ロータリークラブテーマ

ロータリーを機会と捉え、その機会により未来を拓く

本日の例会

国歌斉唱・Ｒソング斉唱・来訪者紹介

会長の時間

幹事報告・出席率報告

会務報告

人吉ＲＣ奨学生現状報告・Ｒの友紹介

Ｒ財団月間卓話

寄付カード

点　鐘　　青木一幸 会長

歌　唱　　ｿﾝｸﾞﾘｰﾀﾞｰ 伊久美早利委員

国 歌　「君が代」
Ｒ Ｓ　「それでこそロータリー」

司会・進行　　ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ　小笠原賢治 委員長

会長の時間

会長　青木一幸

皆さん、こんにちは。

本日は、ロータリー財団委員会卓話ということで、後ほど、片岡委員長よりお話をいただくことになっています。先月２３日に熊本市内で行われましたポリオ撲滅の募金活動の報告もあわせて行っていただけるようです。本来であれば活動後すぐに私か幹事よりご報告すべきところでしたが、本日行っていただけるとのことで、心より感謝申し上げます。

さて、今週水曜日、皆さんの大方は夜中にテレビに向かわれていたかと思いますが、ワールドカップの大会で日本がドイツに2対１で勝利をいたしました。圧倒的にドイツ有利との下馬評の中、私も正直まあ善戦はすれど勝つのは難しいのでは、と思っていたところでしたが、あにはからんや、後半、見事な逆転で勝利をいたしました。

日頃、私はあまりサッカーは観ない方ですが、日本代表となるとやはり応援に熱が入ります。野球にしろ、ラグビーにしろ、代表の試合となると、にわかファンが一挙に増えるのはいつものことです。

正確には、そのスポーツのにわかが増えるというより、代表と同じ日本人であるというアイデンティティーが呼び起こされるということなんだろうと思います。先般もこの会長の時間でお話をしましたが、国があることの有難さや尊さといったものを感じるイベントとして、こうしたスポーツ大会の意義は大きいと改めて思ったところであります。

それと、これも前回の会長の時間で話したことですが、水曜日の試合を見て、やはり「何事も予断を持たずに事にあたる」ことが大切であると、話したそばから「まあ勝つのは無理だろう」と安直に思っていた自分への反省も込めて、再度思いなおしたところでもありました。本当にいろんな意味で大変よい試合でした。この勢いで決勝トーナメント進出を決めてもらいたいと思います。

さて、皆さんはワールドカップ大会が行われているカタールという国のことについてどれくらいご存知でしょうか。

２０２２年時点で総人口約250万人で、そのうち約１０％程度がカタール国民、あとはエクスパットでいわゆる海外から流入した労働者です。その意味ではカタールは多民族国家です。従って公用語はアラビア語に定められてはいるものの、共通語としては英語が日常的に使用されているようです。

ロータリーでも、今年度は特にダイバーシティといった理念を全面に出して活動していますが、これくらい多様性のある国ですと、ダイバーシティという単語自体が「死語」とまでは言いませんが、あまり意味のない言葉なのかもしれません。

しかし、それだけの超多様な社会をうまく一つにまとめていくには、英語という共通言語も大事ですし、

もっと言えばイスラム教という宗教の力も大きいのではないかと思います。
　外国人にイスラムの戒律が強制されることはないようですが、しかし外出時には、必要以上に華美な服装や露出度の高い服装、装飾品はつけないとか、現地では見ないような目立つ車には乗らないとか、公共の場では大きな声で現地のことについて批判的なことはいわないようにすることが大切なようです。
　イスラム教の下で、ある部分では不自由なところもありますが、そうした教えが、国民の自制的生活態度につながり、いろんな民族がひとところで生活することを可能にしているという面は否定できないのではないか、と思います。
　宗教というのは人の内心の問題であり、いろんな面でそれをどう評価するかは大変難しいことです。もっとも、現在社会問題となっている旧統一教会の問題については、その宗教性と切り離して、その様々な行為自体の反社会性や違法性について、冷静に議論し検証すべきと思いますが、社会治安の有効な手段として、歴史上の為政者もまた宗教の力に頼ってきたこともまぎれもない事実であります。
　私としては個人的には、一つの道徳規範として宗教というものを自分なりに解釈していますが、皆さんはいかがでしょうか。
　来年は、私もいよいよ還暦を迎えます。もう一度、赤子に戻って生まれ代わるということですが、そうした宗教に対する考えもまた歳をとるに従って変わっていくのかもしれません。そういう意味でもここにいらっしゃる人生の諸先輩方にはどのような宗教観をお持ちなのかという点も、コロナが収まってもっと夜の宴会ができるようになりましたら、いろいろお聞きしたいと思っているところでありますので、どうぞよろしくお願いをいたします。
　本日は、サッカーの話から始まり、〆は宗教の話と、やや跛行的な話になってしまいましたが、これにて本日の私の会長の時間を終わります。
ご清聴、有難うございました。

幹事報告

幹事　加登住　亮

≪連絡事項≫
・菊池RCより創立50周年記念誌（回覧）
・人吉商工会議所より新年賀詞交歓会のご案内
　令5年1月10日（火）18:30より
　ホテルサン人吉　会費5,000円（申込締切12/16）
○今後の例会予定
12/2　例会　12：30～　あゆの里
12/9　例会　12：30～　あゆの里

出席率報告

委員　松下哲也

現　会　員　数	48名	出席免除会員数	2名
出席義務会員数	46名	本日の出席率	
欠　席　者　数	20名	57.45%	
出　席　者　数	26名		
免除会員出席数	1名	ZOOM(3)　会場(24)	

会務報告

【ゴルフ愛好会】　　運営委員会 水野虎彦

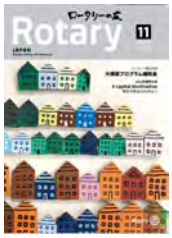
１０月９日(日) チェリーゴルフ人吉コース
青木会長杯 第３戦　**優勝 浅野　強会員**

１０月ワンオンチャレンジ2,400円でした。
人吉RC奨学基金へ寄付いたします。

【人吉ＲＣ奨学基金委員会】

球磨工業高校第８期生３名よりビデオによる現状報告

【雑誌委員会】



ロータリーの友１１月号紹介
委員長　上村祐一

＜横組み＞
・ｐ１４～　基金について、対話形式で表現されているので基本的なことが判り易かった、年次基金への寄付は財団で使い切り、冠名基金ではそれを原資に投資運用を行い、収益がある限り良いことをし続けることが出来る・・・など。
　※個人的には、冠名基金が平均７．５％の投資収益を上げていることに興味をもった。０金利政策下の日本ではかなりの成績に思えたので。株の配当金でもなかなかそこまではいかないことを考えると興味のある数値といえる。

＜縦組み＞
・ｐ４～「人との出会いひととのつながり」
（どうして日本が、第二次世界大戦の敗戦から立ち直り、世界の経済大国になったのか？）
最貧国からの脱出には５０年はかかるだろうといわれていたのに、２３年でＧＮＰ世界２位になったのは？その答えの一つに、日本が誇る２００年以上の長寿企業の、持続可能なステークホルダー（利害関係者）を重視する、近江商人的「三方（売手・買手・社会）良し」的考え方があるのではないか。（どうして日本人は東日本大震災のような甚大な被害被ったにもかかわらず、そんな非常時でも礼儀正しくふるまえるのか？）アメリカの場合略奪が起き被災地は無法地帯と化すというのに・・・。その答えは本の中にありますので、皆さん読んでみることをお勧めいたします。

その他、九州関連記事の紹介
ｐ２２　球磨川一斉清掃活動
　　（八代南ＲＣ／やつしろＩＡＣ）
ｐ２５　熊本県水球競技大会を開催
　　（熊本南ＲＣ）

【Ｒ財団委員会】

１１月 ロータリー財団月間卓話

『 世界でよいことをしよう 』

委員長　片岡啓一

ロータリー財団委員長の片岡です。ロータリー歴40年、職業分類は薬剤師です。

本日の卓話は、「ロータリー財団月間」ということで、ロータリー財団について皆さんに理解を深めていただく目的でお話をさせていただきます。本日は20分のお時間をいただきましたので、年寄りの与太話にお付き合いをお願いいたします。

「ロータリー財団」の活動は大変幅広く、「世界でよいことをしよう」のキャッチフレーズのもと、「ポリオ根絶」を始め「平和と紛争の予防」「疾病予防と治療」「水と環境」「母子の健康」「環境問題」「教育と識字率向上」など様々な分野へ財団の資金を使って活動を続けております。

昨年11月「財団月間」の活動として卓話を行い、ポリオ撲滅の問題をテーマにお話しをいたしましたが、先月23日、「世界ポリオデー」にちなみ、2720地区の財団委員会主催で「ポリオ根絶」を目指し、熊本サクラマチプロムナードを中心に新市街や下通アーケードにおいてポリオ根絶募金活動が開催され、我がクラブより12名の会員と共に参加してまいりました。地区内の多くのクラブより300名を超える会員が参加され、総募金金額401,780円が集まりました。参加されました会員には３時間以上の募金活動たいへんご苦労様でした。

そして、財団活動について、もう一つ皆さんにご報告があります。

10月15日多良木総合グランドで開催しました知的障がい者陸上競技競技大会には、ロータリー財団地区補助金から269,880円と人吉クラブの予算269,880円とで「第６回人吉RCチャレンジカップ陸上競技大会」が開催されました。コロナ禍の中、久しぶりの開催に子供たちにも喜んでもらい、ご父兄にとっても大変有意義な大会だったと思います。

次に、この写真のご婦人を覚えていらっしゃいますか？

そうです、元国連難民高等弁務官の緒方貞子氏です。ご存じと思いますが、彼女は1951-52年度にロータリー国際親善奨学生として日本で二人目のロータリーフェローとして、米国ワシントンのジョージタウン大学の修士課程で学ばれました。1951年は、昭和26年にあたり、人吉クラブが設立する以前のことでして、相当昔のことです。彼女のお話の中に「アメリカ留学中は、ロータリアンや留学生との交流を通じて奉仕の精神を学ぶとともに、戦後の貧しい時代にあっただけに、広い視野と経験を得たことが感慨深く思い出されます。ロータリーの精神である『超我の奉仕』という言葉は私の心に深く浸透し、今に至るまで、私を導いていると感じています」と述べておられます。このような素晴らしい方がロータリー財団奨学生であったことは、我々にとっても、大変な誇りとなっています。

本日の卓話のテーマを思案しておりました時、延岡ガバナー補佐より、卓話のテーマについてのヒントが与えられました。それはこの人吉球磨地区より、アメリカの大学へ留学したいとの希望でロータリー財団奨学金の申し込みがあり、「人吉クラブでそのホストクラブを引き受けたらどうか」と地区から打診があったとの報告がありました。

今後、人吉クラブがホストとなれば、人吉クラブのお世話で人吉から海外に派遣する留学生は７人目となります。

そのことについて少しお話したいと思います。

グローバル補助金奨学生制度とは別に、地区青少年交換留学制度という委員会制度もあります。これまでの人吉RCの長い歴史の中で、この制度を利用してアメリカに送り出した学生が６人もいました。そして最初に人吉クラブで引き受けた留学生は、50年も前、アメリカからやってきたウイントン・ホワイト君でした。先日50年ぶりに人吉クラブを訪問してくれました。二人目以降は少しシステムが変わり、来

国際青少年交換事業（IYE）

受入学生（７名）		派遣学生（６名）		
1972～73	ウインストン　C. ホワイト君米国			
1977～78	リサ・ウイシントン嬢　米国	豊成由佳嬢	人吉高校	米国
1983～84	キャシー・リー嬢　米国	須恵あけみ嬢	人吉高校	米国
1988～89	エイミー・ミラー嬢　米国	愛甲真也君	人吉高校	米国
1994～95	ダミアン・パスカル君　米国	松田小春嬢	人吉高校	米国
1995～96	トゥラ・Q・マール嬢　米国	新堀拓司君	人吉高校	米国
1998～99	ローレン・E・ザーナー嬢　米国	黒木理加嬢	人吉高校	米国

写真はダミアン君と松田小春嬢

日留学生を受け入れ、そして人吉から米国へ送り出すという、いわゆる交換留学生の形になりました。それで人吉に来日留学して学生が７名、米国へ留学した高校生が６名でした。米国へ留学した学生は全員人吉高校の生徒たちで、本人の留学希望を受け、人吉高校で推薦をしてもらった生徒たちでした。また、米国から人吉高校へ留学した７名のメンバーは１年間人吉クラブの数名の会員宅に３ヵ月ずつホームステイして人吉高校へ通学しました。

まったく日本語が分からないアメリカの高校生が一人で人吉にやってきて、英語がほぼほぼしゃべれないご家庭にホームステイをし、近所の高校生に迎えに来てもらって１年間通学する。宿泊費、食事代、学費はRCが負担するが、航空券代や旅行保険、ビザの費用などは学生が負担する、というシステムです。

私がお世話をした来日アメリカ人高校生は、エイミー・ミラーさんでした。

来日した彼女を熊本空港まで迎えに行き、最初のホームステイ先の堤脩先生のご自宅に送り届け、また高校にも連れて行き、学校側に紹介しました。最初の１ヵ月ぐらいは、堤病院の近所の高校生に通学を付き添ってもらうよう頼んでありました。その次のホームステイ先は伊久美先輩宅、そして総合病院の元院長の上村先生宅、そして最後が高嶋先輩宅だったと思います。

そして、月に２回高校まで迎えに行き、ロータリークラブの例会に出席して、覚えたての日本語で近況報告をして、例会終了後また高校へ送り届けました。

エイミーと鳥越会員による手品

受け入れのためのホームステイ先の奥様方には大変ご苦労をおかけしての事業でしたが、クラブにとって大変有意義な活動でした。

また、同時に派遣する学生は、本人の希望を受けて、高校の推薦をいただき、アメリカの派遣先の都市のロータリークラブの受け入れの連絡を取りながら、１年間預かってもらう、つまり派遣先での人的支援をいただくというシステムで、この事業の目的は「海外文化交流の機会、および平和と社会正義を推進するリーダーとして成長する機会を青少年に提供すること」となっていました。

このたびのロータリー財団の奨学生が決定すれば、人吉ＲＣにとっても久しぶりに学生の海外派遣事業に取り組むことになり、帰国後の活躍も大いに期待し、有意義なそして楽しみな活動になることと思います。会員皆様の今後のご協力をよろしくお願いいたします。以上で本日の卓話を終了します。
ご清聴ありがとうございました。

【寄付カード】

〈ニコニコ箱委員会〉

- **延岡会員**　松下支店長は初めてのニコニコ担当ですが出席者が少ないのでニコニコも少ないかと思い久しぶりにニコニコします。そして早退しますのでごめんねもします。
- **平田会員**　来客の準備等で早退します。

〈Ｒ財団委員会〉

- **加登住幹事**　片岡委員長、卓話頂きありがとうございました。

点 鐘　　青木一幸　会長